

# 「シンカプロジェクト」長野県川上村と沖縄県恩納村

百瀬 友満

新型コロナウイルス感染症の拡大とほぼ同時期に就任という奇遇もまた記憶に残りそうな、農業委員として残り少ない任期での研修旅行。第8波もようやく治まり始めたことから五味村長さんの勧めで沖縄県恩納村の「シンカプロジェクト」現地視察を実施しました。

2月16日、出発時の気温はマイナス10℃。沖縄到着時は20℃前後と、その差30℃。~~初夏を思わせる様気~~。車窓から見える水田では代かき、畑ではサトウキビの収穫作業の様子が見られ、原村の4月下旬から5月の様気。

恩納村役場では農林水産課の大城さんと、さらに玄間先で長野県川上村の「レタスケ」のお出迎と西村の親交の深さを感じました。

恩納村のレタス栽培は川上村の提案かき、かけとなっている。もともと両村は行政の交流など30年程の交流関係にありレタス栽培の生産ノウハウを持つ川上村は恩納村に技術協力を行ない、恩納村はレタス生産による耕作放棄地の解消、新規就農者の呼び込み、新たな産業の創出といった効果が期待できたことから、平成27年「シンカプロジェクト」と命名されるレタス栽培の共同プロジェクトが立ち上がった。

平成28年より生産者16名で栽培が始まり、3~4年後には145a生産量57tまでに至ったが数々の障害により苦戦をいられる。

恩納村の耕地は北風の影響を受けやすく、風速20m~30m

1 か2日続き。塩害による枯死。また有害鳥獣「タイワンシロガラシ」による食害が発生。ほ場には防風ネット、防鳥ネットが不可欠となる。さらに水はけが良くレタスに適したほ場は土地改良がされたかんがい施設の整った地域に限定されるなど。

5 生産が安定しない一方で、出荷はおんほの駅なかゆくい市場を通して「シンカレタス」として販売している。当初は村内多数存在するリゾートホテルの需要を見込んでいたが、カット加工されたレタスに取って変わることはむずかしく、青果事業所を通じてヨーブ沖縄に出荷しているが出荷量が安定せず出荷できない場合もあり価格が安定しないこともある。

10 本年の生産は、生産者2名、80a。今後は生産者の増加安定供給体制の構築、販路の拡大に取り組み、生産者が増加して出荷量が増加して販売できる状況を構築する取り組みを行なっていくとのこと。

15 役場の担当者が生産の一部である苗作りを担い、きびしい環境の中でも熱心に取り組む姿に敬意を表し、プロジェクトが実を結ぶことを祈ってほ場を後にしました。